

科目名 看護管理学 時間割表記名 看護管理学	配当時期 3年次 単位数 1単位 時間数 30時間(16回)	講義担当者 堤令子 岸川真裕子 松尾和美 吉岡美智子 石原史絵 石井美香子 実務経験ある教員	
事前学習内容 2年次の看護倫理の復習を行う。自己の看護師像を言語化できるよう考える。			
授業目標 1. 看護管理とマネジメントに関する概念が理解できる。 2. 組織における看護職員の責務と役割について理解できる。 3. 看護ケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントについて理解できる。 4. チーム医療の中における多職種の役割を理解し、連携・協働に必要な基礎的知識が習得できる。 5. 看護専門職としてのキャリア開発を学び、自己の将来像について考えることができる。			
DPとの関連 DP1. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。 DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。 DP5. 専門職業人としての責任を自覚し、広い視野にたつて物事を考え、自己研鑽することができる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1	1. 看護とマネジメント 1)看護管理学とは 2)看護におけるマネジメント (1)マネジメントの考え方の変遷 (2)看護職に求められるマネジメントの考え方の変遷 (3)これからの看護職に求められるマネジメント 2. 看護ケアのマネジメント 1)看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2)患者の権利の尊重	講義	テキスト①
2	3. 看護サービスのマネジメント 1)組織としての看護サービスのマネジメント 2)組織としての目的達成のマネジメント 3)看護サービス提供のしくみづくり (1)看護単位の機能と特徴 (2)看護ケア提供システム (3)労働環境	講義	テキスト①
3	4. ホスピタリティの概念と専門職業人としてのマナー 1)ホスピタリティの概念	講義	

	<ul style="list-style-type: none"> (1)サービスとは (2)QOLとホスピタリティ (3)医療福祉における顧客満足度 (4)医療福祉におけるもてなし 2)専門職業人としてのマナー <ul style="list-style-type: none"> (1)看護師の求められるマナー (2)クレーム対応と安全管理 (3)サービスの品質と顧客の期待、接遇 (4)看護師自身のマネジメント(健康管理) 		
4 5	<p>5. 看護職のキャリアマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)キャリアとキャリア形成 2)看護職のキャリア形成 <ul style="list-style-type: none"> (1)看護職の技能習得段階 (2)新人看護職員の臨床実践能力の向上 (3)キャリアラダー 3)人材のマネジメント <ul style="list-style-type: none"> (1)キャリアディベロップメント（看護職の教育制度） <ul style="list-style-type: none"> ①新人教育、現任教育継続教育、卒後教育 ②高度実践看護師、認定看護師、認定看護管理者 特定行為研修制度 3)タイムマネジメント 4)ストレスマネジメント 	講義	テキスト①
6	<p>6. 施設・設備環境のマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)医療施設の施設・設備環境 2)療養環境の整備 3)作業環境の整備 <p>7. 物品のマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)物品管理の原則 2)供給システム 3)医薬品の取り扱いと管理 4)医療機器の管理 5)廃棄物の取り扱いと管理 <p>8. 情報のマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)情報の種類 2)情報の管理 3)守秘義務 4)プライバシーの保護 5)情報開示への対応 <p>9. 組織におけるリスクマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)リスクマネジメントとは 2)事業継続計画(BCP) 	講義	テキスト①

7	<p>10. 日常業務のマネジメント</p> <p>(1)看護業務 (2)看護基準と看護手順</p> <p>(3)クリティカルパス (4)情報の活用</p> <p>(5)日常業務のマネジメント</p> <p>11. サービスの評価</p> <p>1)医療におけるサービスの質の評価</p> <p>(1)病院機能評価</p>	講義	テキスト①
8	<p>11. チーム医療</p> <p>1)チーム医療に必要な機能</p> <p>2)看護職の責任と役割</p> <p>3)多職種との連携・協働の実際</p> <p>(1)医療関連職種との連携</p> <p>(2)福祉関連職種</p> <p>(3)事務</p> <p>4)安全管理 (安全管理のしくみ・医療事故対策)</p>	講義	テキスト①
9	筆記試験 (45分)	試験(筆記)	
10	<p>12. チーム医療の実際</p> <p>1)チーム医療の条件</p> <p>2)チーム運営の条件</p>	講義	テキスト①② 45分
11	<p>13. 急性期におけるチームアプローチの実際:入院時</p> <p>1)プライマリナースとしての役割</p> <p>2)急性期におけるチームアプローチ</p> <p>①急性期の患者の状態に応じた判断とマネジメント</p>	グループ学習 ロールプレイ	テキスト①②③
12	<p>14. 急性期におけるチームアプローチの実際:入院直後</p> <p>1)急性期におけるチームアプローチ</p> <p>①急性期における多職種連携の実際</p>	グループ学習 ロールプレイ	テキスト①②③④
13	<p>15. 急性期から回復期におけるチームアプローチの実際</p> <p>1)回復期におけるチームアプローチ</p> <p>①回復期の患者の状態に応じた判断とマネジメント</p> <p>②回復期における多職種連携の実際</p>	グループ学習	テキスト①②③④
14	<p>16. 回復期におけるチームアプローチの実際</p> <p>1)回復期におけるチームアプローチ</p> <p>①回復期の患者の状態に応じた判断とマネジメント</p> <p>②回復期における多職種連携の実際</p>	グループ学習 ロールプレイ*	テキスト①②③④
15	<p>16. 回復期におけるチームアプローチの実際:退院前</p> <p>1)回復期におけるチームアプローチ</p> <p>①入退院支援のマネジメントの実際</p> <p>②在宅にむけた継続看護・多職種連携</p>	グループ学習 ロールプレイ	テキスト①②③④

16	15. チーム医療における看護師の役割について 1)現代の問題と看護師に求められるもの:看護の専門性 2)新人看護師としての役割	講義 演習	テキスト①②③⑤
受講上の注意 ○講義と演習により進める。評価は筆記試験とレポートで行う。 ○9回目までは看護統合実習Ⅰ前に講義を行う。 ○チーム医療については事例を通して、すべての実習を統合して学ぶ。			評価方法 筆記試験 レポート
使用するテキスト ① 系統看護学講座 看護の統合と実践 看護管理 医学書院 ② 系統看護学講座 基礎看護1 看護学概論 医学書院 ③ 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 ④ リンダ J. カルペニート著 看護診断ハンドブック第11版 医学書院 ⑤ 看護者の基本的責務 定義・概念/基本法倫理 日本看護協会出版会 参考文献 ① 事例のアセスメントに必要なテキスト ② 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度1 医療概論 医学書院 ③ 系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院			